

2020年度事業計画

2020年4月 1日から
2021年3月31日まで



学校法人 清泉女学院

S J N21 構想に基づく第3期中期計画スタートの年度として、建学の精神の下、安定した経営基盤の構築を目指す。

2020年度は、計画された教学組織の設置、変更等の主要な事業を着実に進めるほか、大きく変化している高等教育行政に対応して、本学らしい教育の質保証、地域との連携強化等を図る。教学組織の設置、変更等は、行政の認可にかかっているが、時々状況に応じて柔軟に対応し、目標を達成する。

これにより、ブランドイメージ、魅力を高めることで、第2次「清泉百年プロジェクト」として清泉女学院の存在感を地域に向け発信する。

1. 教育研究組織の改編、新増設

- (1) 大学院看護学研究科の設置申請と設置準備（2021年4月設置）
- (2) 助産学専攻科の設置申請と設置準備（2021年4月設置）
- (3) 心理コミュニケーション学科の入学定員、収容定員増（2021年4月増員）
- (4) 人間学部の心理コース・英語コミュニケーションコースの在り方の検討
- (5) 国際コミュニケーション科の教育課程及び定員減の検討（2020年度～2021年度）

2. 教育活動

教学マネジメント体制の高度化、教育の質保証、学修の成果の見える化を進める。このため、アセスメント・ポリシーを適切に運用し、学習成果の実現に向け、3ポリシー（AP、DP、CP）の検証、改善を行う。

(1) 建学の精神の実現

（大学・短期大学共通）

ミッションスクールを持つ暖かい雰囲気作り等によるほか、引続き多くの施策を通してアイデンティティの維持と地域への浸透を図る。特に、建学の精神の基となるカトリック精神の可視化を、共通教育の再構築の検討と合わせて進めていく。

(2) カリキュラム

- ・ディプロマ・ポリシーの達成評価を行い、学習成果の達成を図る。
- ・全学的な共通教育を含む教育課程及び取得できる資格等の確認し、教育内容及び組織等の再構築の検討を開始する。
- ・アクティブ・ラーニング的要素をさらに導入し、自主的学修を適切に促す。

①人間学部

ア. 心理コミュニケーション学科

- ・公認心理師の実習を円滑に進める。
- ・再課程認定で対応した英語教職課程のカリキュラムを確実に実施する。

イ. 文化学科（設置3年目）

- ・文化学科の完成年度後のカリキュラム改善の方向性を検討する。

②看護学部

- ・設置認可申請に沿って、着実な授業の運営（講義、実習等）を行う。

③短期大学部

両科とも教職課程再課程認定に伴うカリキュラム改訂に沿って、順次、新カリキュラムに対応していく。

ア. 幼児教育科

- ・学習成果の獲得状況の確認を通して、授業改善、成績評価の適正化に取り組む。

・保育者養成の機器備品や教材を計画的な充実を図る。

イ. 国際コミュニケーション科

- ・コース制を含めたカリキュラムの再編成について、2022年度実施を目途に検討を進める。
- ・入学前教育から初年次教育の再検討を行う。

(3) 英語教育・国際交流・留学

留学、国際交流への関心をさらに高めるとともに、生きた英語力の強化に取り組む。

- ア. 英語母語話者の教員による授業、コンピュータによる英語学習などにより、より真正性の高い英語教育を継続する。
- イ. セメスター留学のサポート、海外研修プログラムの安全確保体制も含め充実を図る。
- ウ. 受入留学生のサポート、在学生との交流を継続する。

(4) ICT教育

①人間学部

日商PC、MOS等の資格取得を通して、基礎的能力の向上を図るほか、応用力の伸長も図る。

②短期大学部

- ア. 社会に出て必要となるコンピュータの知識と技術を教育する。
- イ. 国際コミュニケーション科ビジネスコースを中心に、より専門性の高い、時代の要請に添ったICT教育を進める。

(5) 図書館

ア. 2キャンパス図書館の有効利用

東口キャンパス図書館との連携を強化するため、2キャンパス間の有効的な運用について検討する。長野清泉中学・高校の生徒による東口キャンパス図書館利用の定着を図る。

イ. 学生の学修環境、教員の研究・教育環境の整備

各科目で挙げられている参考資料を整備するほか、計画的に蔵書見直しを行う。

3. 研究活動

- (1) 看護学部開設にあわせて見直しを行った研究費に関連する規程及び研究倫理規程の着実な運用を行う。
- (2) 共同研究において、重点研究課題を設定し、研究成果の地域への還元や学内における教育改革の促進を目指す。また、科研費をはじめとした競争的研究資金の獲得を積極的に支援する。
- (3) 研究関連諸規程及び取扱基準に基づき、不正防止計画を実践する。

4. 学生生徒支援

上野キャンパス、長野駅東口キャンパスの連携を密にして学生支援を行う。

(1) 奨学金

各種奨学金制度を分かりやすく学生に伝え、必要な学生に対する経済的な支援を行う。高等教育の修学支援新制度による学生への支援及び基準の確実な運用を行う。

(2) 通学支援

- ア. スクールバスとマイクロバスの運行を継続する。
- イ. バス通学学生への補助を継続する。

(3) ケア体制

- ア. 学生生活上のサービス支援を継続する。
連絡網システム活用による、学生の安全確認、各種情報提供・連絡を適切に実施する。
一人暮らしの生活講座を開催し、下宿学生が安全に生活できるよう支援する。

イ. 学生支援の継続

教職員で欠席調査等の情報を共有のうえ、退学者の防止や学生個々人に合わせた支援を行う。

ウ. アメニティ等の意見の汲み上げ

学生生活アンケート結果の活用等を通じて学生の意見を汲み上げ、可能な改善を行う。

(4) キャリア支援

ア. 多様な学生との相談体制および対応力の補強

- ・キャリア担当教員と情報共有のうえ、効果的な就職活動支援を行う。

イ. キャリア支援の質の向上

- ・ガイダンス・セミナー・キャリア系授業と連携し、キャリア支援の向上を図る。

ウ. インターンシップの推進

- ・インターンシップを推進し、職業意識の形成と自立心の向上に役立てる。

エ. 看護学部学生の就職等の情報収集、企業・外部機関との関係構築を順次図る。

5. 保護者・地域社会等との連携

(1) 保護者・卒業生

ア. 保護者会（泉会）総会、学内報「カレッジ通信」学内等の情報発信を継続する。

イ. 卒業生の同期会を開催するほか、アンケート調査を実施し、卒業後の状況を確認する。

ウ. 愛泉会との連携強化を検討する。

(2) 地域社会との連携

建学の精神を具現化する地域連携を展開する。

ア. 地域連携センターの機能再構築

地域課題と学部・学科の教育活動を繋げ、各学科の特徴を生かした教育研究の結果を社会的活動へ還元する機能の充実を検討する。

また、社会人受入れ（リカレント教育への対応）のための仕組み作りの検討を進める。

イ. 生涯学習講座や開放講座

知の拠点として発信し、地域ニーズに応えられる体制と講座内容の見直しを行う。

(3) ボランティア

ボランティア活動の質的・規模的な向上及び拡大を念頭に置き、学生主体のボランティア活動の実現に向け、学内での啓発活動、コーディネート体制を維持する。

6. 学生生徒の募集・受け入れ

(1) 入学者数・学生生徒数の目標

ア. 人間学部 100名

イ. 看護学部 76名

ウ. 幼児教育科 105名

エ. 国際コミュニケーション科 80名

(2) オープンキャンパス・学校説明会

上野キャンパス、東口キャンパスを機能的に使用して行う。

ア. オープンキャンパス 6回開催（試行としてオープンキャンパスの早期開催）

イ. 個別入試相談会 5回開催

ウ. オープンキャンパス参加への誘導（SNS、DM案内、高校訪問による告知等を充実）

(3) 志願者増への取組

ア. データ収集・分析に基づいた戦略の立案

イ. 資料請求者の増加策の実施

- ・早期の資料配布

- ・Web 広告、ホームページの充実

- ウ. 高校へのアプローチの強化
 - ・ 姉妹校との連携を強化
 - ・ 入学者減少高校の状況確認、対策
 - ・ 出張講座、教員の訪問等による大学の学びと教員の魅力伝達
 - エ. 保護者対策
 - オープンキャンパス開催時に保護者説明会を開催し、メリット等をPR
 - オ. 高等学校教諭へのアプローチ
 - 姉妹校連絡協議会、高校連絡会を継続開催
 - カ. 出願への誘導
 - ・ 出願層の入試行動の仮説を前提とした入試制度の変更
 - ・ DMによる出願関連情報の提供
 - キ. 合格者の歩留まりをアップ
 - 合格者への情報発信の強化
 - (4) 編入・帰国子女
 - ア. 短期大学部からの姉妹校推薦編入学者の増強
 - イ. 公開講座参加者を中心にアプローチを実施
 - ウ. 漢陽女子大学からの編入学者の確保に限界が出てきており、別のルート開拓も検討する。
 - (5) 広報活動
 - ア. 第3期中期計画に基づく、第2次清泉百年プロジェクトを展開し、長野の清泉ブランドイメージの定着を目指す。
 - イ. リベラルアーツの大学であることを、改組と合わせて広報する。
 - (6) 入試制度
 - ア. 高大接続改革
 - ・ 年内応募者の増強を狙いとした新たな入試の仕組みを導入する。
 - イ. 高大接続改革に対応して、安定した受験者が確保できる入試制度の検討を行う。
 - (7) 学納金
 - 全学的な学納金の水準は現状のままとする。但し、看護学部の学納金については、入試の状況から判断していく。
 - 新しくした入試特典制度（ラファエラ・マリアスカラシップ）を周知していく。
7. 施設設備の維持・充実
- (1) 施設設備計画
 - ア. 上野キャンパス関係
 - アクティブ・ラーニング等に適した授業を展開するため、教室視聴覚機器等の充実を図る。施設設備の更新的な投資を継続して行う。
 - イ. 長野駅東口キャンパス関係
 - 長野駅東口キャンパスにおける什器、備品整備のための投資を継続する。
 - (2) 修繕計画
 - 大規模修繕は計画していないが、経年劣化した設備の維持的投資及び修繕を行う。
 - このほか、上野キャンパス施設については、委員会を設置し、老朽化している施設の対応、機能の見直し、演習棟も含めた施設の再構築に向け、検討を開始する。

8. 外部資金

(1) 補助金

ア. 経常費補助

経常費補助の獲得が厳しくなる中、2019年度実績並みの補助金獲得を目指す。
改革総合支援特別補助等へ積極的に申請する。

イ. その他補助金

可能な補助金については都度申請していく。

(2) 寄付金

ア. 通常寄付

関係団体ほかからの寄付金を募集する。

イ. 清泉百年プロジェクト

清泉百年プロジェクト（文化学科設置、看護学部設置、施設の充実、定員の確保等）を目的に寄付金の募集活動を引き続き行う。

(3) 研究費等

研究活動の充実のため、科研費への応募を一層促進する。

9. 管理運営、財政基盤の充実

(1) 中期計画

ア. PDCA の実施状況

年度及び半期の実施状況の確認と未達成事項等を踏まえた計画の修正を実施している。内容の点検は、自己点検評価とも連動させ、計画達成のための実質的なPDCAを引続き展開する。

イ. 第3期中期計画の遂行

2019年度に策定した第3期中期計画（2020年度～2024年度）を着実に遂行する。

遂行に当たっては、IR、自己点検評価等により得られたデータ、仮説に基づき修正をしつつ遂行する。

(2) 経費方針

ア. 予算編成

事業活動収支計算書の全体見込額を予算として、その枠内で部署の予算を割り当てる方式で編成する。予算割当額は、各部署の過去の実績と年度における事業の必要性等を考慮のうえ経営改革・運営会議で決定し、各部署に通知する。

イ. 経費計画

教育研究水準の低下を招かないことを前提に、過去の実績を考慮のうえ総枠としての経費見込額を設定した。この総枠から各部署予算枠を設定するが、各部署の削減努力により達成する。

(3) 第2号基本金計画

計画しない

(4) 情報・システム関連

システム基盤関係の危機の老朽化対応のほか、大学院、専攻科等の設置に伴う対応を実施する。

(5) 自己点検・評価

毎年のIR室の分析等を基に点検評価を実施し、点検評価を翌年度事業計画に反映をすることで事業計画のPDCAとリンクさせる。特に、「教育の質保証」を、アセスメント・ポリシーに沿って、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの検証を実施し、PDCAを通して達成する。

10. 経営課題

(1) 経営状況の分析

①財務分析

ア. 大学

2003年4月に開設されて以来、入学定員割れの状況が続いていたが、2018年度、2019年度には入学者が定員を上回った。過去の定員割れの影響から、2007年度からは経常収支差額は赤字を計上している。運用資産はマイナスとなっているが、短期大学と一体で財務運営をしている関係から借入れをすることなく運営し、資金面の懸念はない。

日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標 イエローゾーンの「B2」段階

イ. 短期大学

ここ数年、幼児教育科、国際コミュニケーション科合わせた入学者は、定員を若干割って推移している。この影響から、経常収支差額の黒字は減少し、2018年度の収支はほぼ均衡している状態である。

日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標 グリーンゾーンの「A2」段階

ウ. 全体

2019年度看護学部を設置における新校舎建設資金の支出、また、看護学部が完成年度を迎えるまでは経常資金の流出がある。

②マーケット分析

存立基盤の確立に向けた、マーケットの確認

大学：社会動向、高等教育機関の動向等から長野県において一定数の進学者が見込める状況は続く と推定される。この状況で、大学は心理、英語、文化の学びをより明確にし、受験生へ訴求することで、人間学部の学生確保は可能なマーケット状況と判断する。また、看護学部に関してもマーケットとしては十分にあり、学生確保が可能な状況にある。

短大：短大進学者数の減少傾向にはある。しかしながら、県内短期大学における本学のステータス及び教育実績、就職実績等での強い立ち位置から、今後、一定の学生確保はできる状況にある。

(2) 経営上の成果と課題

人間学部に文化学科を設置、公認心理師資格課程の設置、「清泉百年プロジェクト」の展開等により、2018年度の入学定員確保し、2019年度4月看護学部を新設した。この結果、学生確保は看護学部の定員確保に課題は残るが、計画に近いレベルにきている。

また、大学院看護学研究科、助産学専攻科、人間学部の定員増等ができれば、大学規模として存続が可能な枠組みとなる。収支面は、現状の人件費、一般経費の効率化を進めたが、文化学科及び看護学部の設置、資格課程の設置等により新たな経費が発生している。このため、経常収支差額の黒字化は2022年度になる。一方、上野キャンパスの老朽化・狭隘化してきており、総合的な対策に迫られる状況にある。

(3) 今後の方針・対応方策

経営面の戦略（上記SWOT分析ほかによる）

①学生確保

戦略1 広報活動の見直し、入試制度の見直し、奨学金制度の再検討により、組織的な学生確保を安定化させる。（学生確保の強化）

戦略2 教育の質を保証し、学生満足度を向上させ評価をあげることでアドミッション・ポリシーにあった学生を確保する。（質保証体制の整備）

②経営 財務面

戦略1 危機感の共有化の下、教職員の意識改革を促し、人材の育成、業務の効率化を図り、適正な人件費、経費による運営を維持する。（人材育成、業務の効率化）

戦略2 入学者の増加、寄付金募集の強化、及び補助金行政への対応により2023年度に全学合わせて黒字化をする。(外部資金獲得強化)

③投資、施設設備面の整備

戦略1 アクティブ・ラーニング、演習等の充実を図るため、校舎、施設面の再整備を中期計画第2フェーズの教学改革計画にタイミングを合わせて計画する。(上野キャンパスの整備)

戦略2 大規模な再整備計画と並行して、アクティブ・運営会議メンバーラーニング用の教室や、老朽化した施設の改修を行い、学生の満足度を向上させる。

④姉妹校、外部機関との連携強化

戦略1 第1フェーズ前半で、長野清泉女学院中学・高等学校との連携強化を模索し、強化策を打ち出す。

戦略2 関係団体、外部関係先、地域企業等との連携を強化する。

11. その他

(1) 周年活動

2021年4月に短期大学設置満40年となるが、記念行事は予定しない。

(2) その他記念行事

2021年4月に大学院設置、専攻科設置の記念行事は今後検討する。

新学習指導要領の実施に向けて、地域で魅力ある学校としてあり続けるための改革を始める

1. 教育研究組織の改編、新增設

- ・校務分掌の統合と均等配分
1 部署、1 委員会、1 部活の所属を目指し、校務の均等化を図る
- ・新学習指導要領の実施に向けて、高校のコースの見直しと魅力づくりへの検討

2. 教育活動

(1) 建学の精神の実現

- ・建学の精神に基づいた「総合的な探究の時間」のプログラム作り

(2) カリキュラム

- ・新学習指導要領に向けて、魅力ある中学であるための教育課程の見直し
- ・新学習指導要領に向けて、魅力ある高校であるためのカリキュラムの研究
- ・各科の探究科目の研究

(3) 英語教育・国際交流・留学

- ・英語教育の強化
ICT を活用した個々に合わせた英語教育の研究
- ・エンパワーメントプログラムの継続
- ・高1 語学研修、中学オーストラリア研修の充実
- ・高大接続の具体化
- ・楽力プロジェクトB：世界とつながる
海外姉妹校との交流の継続および新たな企画立案

(4) ICT 教育

- ・中1、高1 全員にタブレットを貸与し、主体的な学び実現のために授業内で使用
- ・教員対象の授業で活用するための校内研修の実施
- ・ペーパーレス化の推進
- ・文科省の「GIGA スクール構想」に即した整備

(5) 図書館

- ・「探究」授業の充実に向けて各教科との連携強化
- ・楽力プロジェクトC：読書の恵み
「本を読むことで、学力だけではなく、表現力、コミュニケーション能力を高める」ことを目標に、読書感想文、POP作り等を通じて、他者へ伝える力を育む

3. 研究活動

- ・「新しい学び」をテーマとした研究授業の実施(全職員で参観)信州大学の教授を助言講師に迎え、研修の分かち合いと講師によるワークショップの実施
- ・新学習指導要領に向けて新カリキュラムの研究
- ・ICT を用いた授業の研究と実践
- ・タブレット貸与に際しての使用上の注意点など生徒指導の研究と実践
- ・主体的な学びに向けての支援方法の研究と実践
- ・中高大連携の効果的な在り方の研究と実践

4. 学生生徒支援

(1) 奨学金

奨学生：前期後期の半期ごとに人物および学業成績優秀者、各学年1名に奨学金を支給

(2) 通学支援

長野駅から本校直通のスクールバスを運行（朝4台、夕3台）また、最寄りバス停や駅周辺での見守り活動を実施・継続

(3) ケア体制

- ・ 中学と高校それぞれに相談室を設置し、一時的なサポート教室として活用
- ・ 保健室内カウンセリングルームの活用
- ・ 臨床心理士（スクールカウンセラー）の教育相談日の設定と実施
- ・ 発達障がい理解のための研修会の実施や非常勤講師との情報共有によるサポート体制の構築

5. 保護者・地域社会等との連携

(1) 保護者・卒業生

- ・ 保護者授業参観、保護者会、懇談会、講演会等の実施と内容の充実
- ・ 保護者会を合同で実施することにより活性化

(2) 地域社会との連携

- ・ 老人福祉施設やろう学校等の交流の継続
- ・ 楽力プロジェクトA・E：地域行事への参加・交流、地域施設の企画への協力

(3) ボランティア

- ・ サマーチャレンジボランティア等地域ボランティア活動の推進

6. 学生生徒の募集・受け入れ

(1) 入学者数・学生生徒数の目標

- ・ 2020年度中1は37名と定員を満たした。2021年度も定員の充足を目指す
- ・ 2020年度高1は一貫生の減少に伴い、10名以上の減となる。また、地域の中3生の減少も更に続くため、まずは本年度の入学者の維持を目指す

(2) 学校説明会

- ・ 学校説明会の内容の見直し
体験入学、授業見学、体験授業、模擬試験などの効果的な実施を検討・実施

(3) 志願者増への取り組み

- ・ 課外活動の場への広報活動の検討と実施
- ・ 学校訪問における効果的な情報提供の検討と実施
- ・ 新しい学びを取り入れた魅力的な授業の研究と実施

(4) 編入・帰国子女

- ・ 中学編入、転入における制度の構築

(5) 広報活動

- ・ ホームページにおける発信の強化
- ・ 小中学校用配布チラシの内容の検討・改良
- ・ イメージ動画の作成と公開
- ・ 小学校行事への協力の拡大
- ・ 地域行事への積極的な参加

(6) 入試制度

- ・ 公立高校入試改革前に特色ある入試制度を提案・検討
- ・ 入試に関わる業務を中学校や保護者の視点に立って見直し、改善を検討

(7) 学納金

- ・就学支援金制度の変更に伴い、2020年度から授業料に維持費を組み込み、恩恵を受けやすくする

7. 施設設備の維持・充実

(1) 施設設備計画

- ・聖心館等大規模改修工事第2期（教室照明のLED化等）
- ・IT教育設備補助金活用によるICT教育設備の整備第2期（情報教室のPC更新等）

(2) 修繕計画

既存施設設備の維持・安全管理

- ・聖心館等大規模改修工事第2期（聖心館外壁塗装、和式トイレの洋便器化等）
- ・電気室遮断器の入れ替え
- ・防法に基づく消火器（製造後10年経過）の入れ替え及び防火シャッター法定点検

8. 外部資金

(1) 補助金

- ・校納金に次いで大きな収入源である学校法人補助金の更なる増額確保を目指し、教職員一丸となった取り組みと一体感が図れるよう、特色教育の項目については担当教員にも協力を仰ぎ知恵を出し合って増額確保に取り組む
- ・IT教育設備補助金を活用し、情報教室のPC更新等ICT教育設備の整備を進める
- ・大学看護学部の開学に伴い、本校看護コースから大学看護学部という新たな姉妹校路線の確立に期待が寄せられていることから、理科教育設備補助金の活用により関連理科教育設備の更新と充実を計画的に進める

(2) 寄付金

- ・大学・短大との清泉百年プロジェクトによる寄付金募集
- ・ホームページや学校新聞、同窓会報等を活用し、寄付金募集の周知を行う
- ・返還学校債からの寄付受納及び勧誘

(3) 遊休資産売却等

- ・自動販売機設置場所の賃貸借化による収益確保
- ・検定試験会場貸与による施設使用料を見込む
- ・校庭下の旧テニスコートについて活用を検討する

9. 管理運営、財務基盤の充実

(1) 中期計画

- ・職員会において取り扱ってきた毎年の決算概況報告を、中期計画の中における現在決算状況及び中期計画の遂行状況を報告する様式へと発展させ、教職員一丸となったPDCAへの取り組みや経営意識の醸成を図る

(2) 経営方針

- ・下見積による価格調査や協力業者への照会を励行する等、見積合わせの徹底と強化を図る
- ・LED照明への切り替え、デマンド制御装置の適切な運用、太陽光発電システムの効率運用により省エネ及び電気料金の削減を図る
- ・タブレットを活用しペーパーレス化を図るとともに印刷をする際は裏紙利用を促進する
- ・地元地区の資源回収の利用により、廃棄コストの削減に努めるとともに地区に貢献する
- ・授業料等滞納者や家計急変者への迅速な対応により、滞納の未然防止及び早期解消に努める

(3) 第2号基本金計画

- ・H30年度に3億円の積立が満了となり、当面の新規組入計画はなし

(4) 情報・システム関連

- ・職員会議などで ICT 機器を利用することで、ペーパーレス化及びセキュリティー強化を図る
- ・学校業務用ファイルサーバーを更新するとともに、クラウド化を推進するための情報を収集する
- ・授業系 PC の一括管理を行うことでセキュリティーを強化するとともに効率化を図る

(5) 自己点検・評価

- ・自己点検・評価を行うことで、偏りのない業務分担を目指す

10. 経営課題

(1) 経営状況の分析

- ・経営判断指標に基づく経営分析を行うとともに、教職員に財務情報の共有し経営意識の醸成を図る

(2) 経営上の成果と課題

- ・生徒募集部を中心とした学校説明会等への注力、広報活動により 2020 年度中学校入学者は定員を充足した

(3) 今後の方針・対応方策

- ・学校や学習塾への訪問回数を増やし、本校の魅力を伝えるとともに担当者との信頼関係を構築する
- ・学校校自己評価を継続して行い、魅力ある学校づくりのための教育活動、教職員のあり方の見直しを行う
- ・高校のコースの見直しを行うとともに魅力あるカリキュラムの検討を進める
- ・教員に支給したタブレットを活用し、授業や会議などの効率化と負担軽減を図る

11. その他

- 大学・短大との清泉百年プロジェクトによる寄付金募集を継続して行う

1. 教育研究組織の改編、新增設

- ・学年主任、学級担任をはじめとする学年団原則3年持ち上がり制度の試行
- ・新カリキュラムに対応するため、研究・検討・準備

2. 教育活動

(1) 建学の精神の実現

- ・中1から高3まで6年間通じてのライフオリエンテーションプログラムの充実
- ・「清泉が大切にしている10の価値」を月目標にしての意識化

(2) カリキュラム

- ・新学習指導要領、高大接続、大学入試制度変更に対応する新カリキュラムの研究継続

(3) 英語教育・国際交流・留学

・英語教育

- ・帰国生特別取り出し授業ARE(中1・中2)と中3・高1に於ける英語High Advancedクラスの設置、並びに中1・中2における英語Advancedクラスの設置
- ・英語4技能を偏りなく評価する方法の研究
- ・FLIP (Foreign Language Interactive Program)によるオンライン英会話、e-learning中国語、スペイン語の選択学習の継続
- ・タブレットを使った授業の推進(授業内オンライン英会話、多読プログラム)

・国際交流

- ・中3・高1ニュージーランド夏期語学研修プログラム
(希望者対象オークランド12日間)
- ・ボストンカレッジ研修(栄光学園との共同参加)
(高校生希望者対象、12名、9日間)
- ・ベトナムスタディツアー
(高1・高2希望者対象 20名5日間 ラブスクールでの活動)
- ・海外模擬国連への参加予定(高校生)

・留学

- ・ニュージーランド短期留学制度
(中3・高1希望者対象、ウエリントン、約3ヶ月)
- ・アイルランドのダブリンにある姉妹校St. Raphaela's Schoolとの2週間交換留学開始
- ・インターナショナル学園への国内留学(1週間/中3希望者対象12名)
- ・留学生受け入れ(5月セブ島のカトリック校(栄光学園の姉妹校)より6名、4月～3月日本政府招聘アジア架け橋プロジェクト留学生 1名～2名)

(4) ICT教育

- ・中3全員タブレットPCの購入。中3から高2全員がタブレットPCを所持。主体的な学びのために授業内で使用。
- ・中1・中2全員対象にパソコン特別講座開催。基本的な使い方、プログラミング基礎を学習。
- ・校内ペーパーレス化の推進。
(生徒及び保護者へのお知らせをグーグルクラスルームで配信)
- ・生徒によるICTチームの立ち上げ。

- (5) 図書館
 - ・電算化のための作業継続
 - ・各教科との連携の強化

3. 研究活動

- ・新カリキュラムに対応するため、研究・検討・準備
- ・大学入試制度の変更についての情報収集と学校内での情報共有
- ・清泉姉妹校とのさらなる協力・連携体制の研究
 - 小学校：清泉小向けの出張授業、オープンスクール開催などによる小中の連携
 - 大学：出張授業及び、高大接続入試の導入
 - インターナショナル学園：生徒会共同企画など交流の一層の推進
- ・大学受験に向けての進学指導を中心に、教職員の指導力を高める研究と、教員の自己研鑽機会の増加
- ・生徒を取り巻く環境（不登校、いじめ、ネット依存など）の変化に合致した生徒指導の研究と実践
- ・生徒の自主的活動の支援（模擬裁判、AI 倫理会議、清泉ピースプロジェクト）
- ・栄光学園との連携

4. 学生生徒支援

(1) 奨学金

- ・白水会・泉会・ラファエラマリア会より学費支援、国際交流推進のための奨学金
- ・泉会より中学3年生成績優秀者に高校入学金免除の特典（ラファエラマリア賞 2名）

(2) 通学支援

- ・定期試験、行事などにおけるバス増発（続行便）
- ・災害時対応として、神奈川県・東京都の私学による「登下校時の緊急避難校ネットワーク」に参加

(3) ケア体制

- ・週3日、2名の学校カウンセラーによる生徒・保護者のカウンセリングの実施

5. 保護者・地域社会等との連携

(1) 保護者・卒業生

- ・計画的な保護者授業参観・懇談会・講演会・面談等の実施とその内容の充実
- ・Googleクラスルームを利用したの学校情報の共有強化
- ・キャリア教育の一環として中3、高1、高2で卒業生の講演会実施

(2) 地域社会との連携

- ・玉縄城址見学者の受け入れ。
- ・バザーを通じた地域社会との交流（自治会等へ入場券配布）。
- ・神奈川県ユースの合唱イベント「神奈川県ユースコーラルフェスト2020」への協力。（12月26日予定）

(3) ボランティア

- ・音楽部や管弦楽部によるチャリティーコンサート、地域コンサートへの出演
- ・生徒会を中心とした大船駅近辺および海岸清掃活動
- ・老人福祉施設（共楽荘・七里ヶ浜ホーム）の訪問
- ・福祉委員会による身体障害者地域作業所との交流および各種募金活動

6. 学生生徒の募集・受け入れ

(1) 入学者数・学生生徒数の目標

- ・2020年度以降5年間ほど清泉小学校からの進学者が60名～70名程度になるため、中学入試定員を20名増やし、110名とする（全体で180名）

(2) オープンキャンパス・学校説明会

- ・学校説明会(年3回、内1回は文化祭で実施)・親子見学会(年10回程度)・少人数学校見学会(年5回程度)・クラブ見学会(年1回)の実施と受験生及び保護者への効果的な情報発信
- ・清泉小学校対象説明会の工夫
(4年生に授業見学、5年生に出張授業、6年生にオープンスクール)

(3) 志願者増への取組

- ・塾・予備校に依頼された学校説明会の積極的実施と塾で行われている学校説明会への参加
- ・文化祭を土・祝日開催にすることで来校者を増やす
- ・各塾への個別訪問(年2回)による情報発信と受験生の掘り起こし

(4) 編入・帰国子女

- ・中学入学試験および転編入試験における海外帰国子女の積極的受け入れの促進と広報活動
- ・米国、香港、シンガポール、バンコクでの説明会に参加。現地インターナショナル校、塾への広報活動

(5) 広報活動

- ・神奈川県私立中学校相談会、神奈川県[中・高]全私学展、私学フェア等、湘南ガールズリーグ、オンライン説明会など学外での情報発信の機会への積極的参加
- ・校長、教頭、広報部長による塾訪問など広報活動
- ・ホームページ上での発信の強化

(6) 入試制度

- ・AP(academic potential)入試を2月5日に導入し、3回入試を実施
- ・ニューヨークで在住家庭の小6生対象の帰国生入試を実施。(11月)

(7) 学納金

- ・施設費増額

7. 施設設備の維持・充実

(1) 施設設備計画

- ・校舎中庭改修
- ・防犯カメラ更新

(2) 修繕計画

- ・校舎外壁補修
- ・テニスコート床面補修
- ・中庭地面アスファルト舗装

8. 外部資金

(1) 補助金

- ・対象事業に対する補助通知を受けた場合は、補助内容の検討・精査を速やかに申請を実施

(2) 寄付金

- ・教育研究充実の寄付金を卒業生中心に募る

(3) 遊休資産

- ・遊休資産活用・売却の検討

9. 管理運営、財務基盤の充実

- (1) 中期計画
 - ・事業計画、決算報告等を職員会議の場で説明し教職員に周知
 - ・中期計画に基づく適切な予算執行・管理を行うことで健全な学校運営を務める
- (2) 経費方針
 - ・適切な予算執行の上、経常的経費の見直し・検討を実施する事で経費削減を図る
- (3) 第2号基本金計画
 - ・ラファエラ館建替え資金として2018年度から2024年度の7年間
(毎年5千万円)組入
- (4) 情報・システム関連
 - ・システム連携について検討し業務の効率化を図る
- (5) 自己点検・評価
 - ・「保護者 在校生満足度調査」の実施報告を受け研究を継続

10. 経営課題

- (1) 経営状況の分析
 - ・外壁補修工事(～R3年度)及び2号基本金積立(～R6年度)を実施しており第2基本金積立完了年度(R6年度)までは当年度収支差額は回復見込がない
- (2) 経営上の成果と課題
 - ・姉妹校による内部進学者が減少傾向にある
- (3) 今後の方針・対応方策
 - ・今後の方針
 - ◇姉妹校による内部進学者が減少傾向にあるため、魅力ある学校作りを行い一般受験生の増加を図る
 - ・対応策
 - ◇ICT授業の研究
 - ◇収入増加と経常経費の抑制を図る

11. その他

- (1) 周年活動
 - ・特になし

1. 教育研究組織の改編、新增設

- 特になし

2. 教育活動

(1) 建学の精神の実現

- 建学の精神を様々な学校生活を通して、子ども達に伝え、感じ取らせる働きをする。具体的には「学校の日」「マリア様の集い」「聖心のミサ」「クリスマスの集い」「感謝ミサ」等の学校行事、宗教行事、講堂朝礼の校長の話、宗教科教師による朝の話を通して、子ども達に神の愛を伝える。
- 「わたしたちの教育スタイル」の理解、及び“10の価値”の浸透を図る。
- SDGsを糸口に、国際的・社会的問題に関わっていく姿勢を育む。

(2) カリキュラム

- ・新指導要領の改訂に伴い、独自の清泉プランの完成と実践。
- 夏休み前の補習（全学年）、放課後補習（高学年）を行う。
- 2～6年生希望者を対象に放課後課外クラブ（陸上）を実施する。
- 3年生対象に放課後学習支援（Z会）を行う。
- 1～3年生で実施した様々な学習の成果を発表する。4～6年生は学校行事を企画・実行する。
- 中期計画に基づいて、3つの柱（英語・ICT・アクティブラーニング）を重点的に行う。
- 各教科様々な視点からESDに取り組む。

(3) 英語教育・国際交流・留学

- 5・6年生希望者を対象に海外語学研修（オーストラリア）を行う。

(4) ICT教育

- ① e-learningの研究・推進を図る。
- ② プログラミング教育の積極的な導入。
- ③ 1人1台のタブレット学習（3年生）、他学年は共有タブレット
- ④ 週2日ICT支援員を導入し、教育の充実を図る。

(5) 図書館

- 図書管理システム導入に基づき、重点的な蔵書点検を行う。

3. 研究活動

- 大学教授指導による「授業研究会」を年6～7回実施する。
- 各教師が自主的に授業を公開し、互いに研鑽を深める。
- 私立小学校関係の研修会（特に、秋には本校が市立小学校関東地区大会の会場校となる）、および全国の教育推進校の研修会に積極的に参加する。

4. 学生生徒支援

(1) 奨学金

- 奨学金制度（給付型）を維持する。

(2) 通学支援

- 児童のために常時警備員を置くほか、安全情報確保のため登下校管理システム、災害時被災報告システム、県内私立小避難校ネットを導入、運営する。
- 通学路にある商店街に協力を依頼し、緊急時には受け入れの承諾を得、安全を図る。
- 多くの児童が登下校時利用する鎌倉駅構内の指導、安全確保を図る。

(3) ケア体制

- 週1日のスクールカウンセラーを導入し、体制の強化を図る。

5. 保護者・地域社会等との連携

(1) 保護者・卒業生

- 「通信表」を年3回(教科別観点方式)、「学校生活のようす」を年2回(1学期、3学期)、「総合活動のようす」を年1回家庭に知らせる。
- 1年に2回(1学期、2学期)「オープンスクール」を開く。(在校生保護者のみ参加)
- 「父の会」「母の会」「保護者会」「のぞみ会」「父親の集い」等で、保護者に学校の目指すものを伝える。
- 「学校だより」「学年通信」「学級通信」「保健だより」「算数だより」「図書だより」「体育だより」「英語だより」を発行する。
- 「いずみ新聞」を年4回発行する。

6. 学生生徒の募集・受け入れ

(1) 入学者数・学生生徒数の目標

- 新1年生の募集：114名 編入生(1～5年)若干名。

(2) オープンキャンパス・学校説明会

- 公開行事、公開授業、学校体験を含めた学校説明会自然教室公開を積極的に行う。

(3) 志願者増への取組

- 幼児教室主催の説明会参加を積極的に行う。
- 幼児教室主催の講演会を行う。
- 幼児教室・幼稚園訪問を積極的に行う。

(4) 編入・帰国子女

- 帰国子女は応相談だが、基本的には年1回1月末に試験を行い、次年度より受け入れる。

(5) 広報活動

- 安定した定員確保のための積極的な広報活動を実施する。
- ホームページの内容を充実させる。
- 卒業生の声を積極的に掲載する。

(6) 入試制度

- 編入の受け入れは年度初めに行う。
- 入試日程を前倒しして、遅れのない入学者確保を図る。
- 即日発表を含めたweb出願の実施。

(7) 学納金

- 変更なし

7. 施設設備の維持・充実

(1) 施設設備計画

- 長期的には校舎の全面的な建て替えが不可避であることから、資金、工期、スペースを見える化すべく、キャンパスマスタープランを作成する。
- 校舎三階内装改修に合わせ、LED化を進める。
- 安全面も考慮し、老朽化したスクールバス車庫をラファエラ広場に移設するとともに、駐車場内敷地整備を行う。

(2) 修繕計画

- 校舎三階内装工事、衛生器具更新、校舎南側外壁壁面修繕、体育館屋根防水工事、受変電設備更新等を行う。

8. 外部資金

(1) 補助金

- 例年通りの金額を見込む。

(2) 寄付金

- 従来の卒業生、在校生及び入学手続終了者からの募集に加え、新たに 75 周年記念行事にあわせた寄付金募集を行う。

9. 管理運営、財務基盤の充実

(1) 中期計画

- 第二次中期計画初年度として、必要な投資は前倒しで実施し、効果の早期実現を図って行く。

(2) 経費方針

- 広報費、修繕費については、必要な手当てをしていく。
- その他経費は抑制的に運用していく。

(3) 第 2 号基本金計画

- 三浦自然教室土地取得資金として、今年度まで毎年 2 百万円組入れていく。

(4) 情報・システム関連

- 新たな成績処理システム・WEB 出願システムを導入し、関連業務の合理化を図って行く。

(5) 自己点検・評価

- カトリック連盟から示されたカトリックミッションに沿った宗教教育、行事が適切に行われているか、しっかりと自己点検していく。
- 教職員の自己点検、保護者からの評価を実施し、PDCA につなげていく。

10. 経営課題

(1) 経営状況の分析

- 安定的経営のためには児童数が 650 前後は必要 (19 年度 546)。
- ここ数年、職員人件費は抑制できているが、教員人件費が増加傾向にある。

(2) 経営上の成果と課題

- 児童数の回復が喫緊の経営課題。

(3) 今後の方針・対応方策

- 本部支援は終了するが、引き続き自己資金で積極的な広報活動を実施。出願方法や日程も見直し、児童数の回復に全力を挙げる。
- 人件費については、中期計画の中で対応していく。

11. その他

(1) (周年活動)

- 75 周年行事 (2021 年度) に向けた準備を具体的に進めていく。

1. 教育研究組織の改編、新增設

無し

2. 教育活動

(1) 「モンテッソーリ教育（幼稚部）」と「国際バカロレア」が提供する3つのプログラム

(①小学部：PYP、②中等部：MYP、③高等部：DP) を柱に、特色ある教育を実践し、「国籍を超えて平和な世界を築く為の人材育、成」を引き続き目指していく。

(2) 特にSY2018-2019 学校年度から試験導入したMYPについては、数年内に本格免許取得を目指す。

3. 研究活動

教育カリキュラムにおける生徒成績評価と共に、学習態度等も含めた多面的評価につき引き続き研究を行なう。

4. 学生生徒支援

クラブ活動、各種スポーツ競技活動、音楽活動等への支援継続

5. 保護者・地域社会等との連携

(1) 毎秋実施される保護者主催によるバザーを支援するとともに、地域社会との交流を深める。

(2) 姉妹校及び近隣日本校との交流活動継続

(3) St. Raphaela Day 等を中心とした各種ボランティア活動等への積極的参加を継続

① 老人ホーム・デーホームでの奉仕活動

② 恵まれない人々への食事提供活動

③ 学校近隣の清掃奉仕活動他

6. 学生生徒の募集・受け入れ

ウェブサイトのコンテンツ見直しを行い、内容の全面的刷新を図ることにより、当学園の特色・魅力をアピールする環境を整えると共に、閲覧状況のチェックを強化し、より多くの生徒保護者のウェブサイト訪問を促し、安定的な生徒数の確保に努める。

7. 施設設備の維持・充実

2016 年度より実施してきた校舎建物に関する付属設備の更新及びそれに伴う内装改修工事を継続。

2020 年度については、①高校棟を中心に空調・電気設備更新並びに屋根防水改修工事、②外観向上を目的とした校舎外装（外壁、バルコニー、サッシュ等）

の改修を予定。

8. 外部資金

(1) 例年通り東京都に対し「外国人学校教育運営費補助金」を申請予定

(2) 東京都私学財団等、施設設備改善に際し利用可能な補助金を検討する。

(3) 寄付金については、様々な機会を通じて企業、保護者並びに卒業生に対し協力を要請していく。

9. 管理運営、財務基盤の充実

(1) 中期計画

財務上の数値目標達成に向け「収支バランス」に一層配慮した運営を図っていく。

(2) 経費方針

収支バランスに留意し、プライオリティを重視した支出方針の継続。

(3) 第2号基本金計画

2025年度まで、每期30百万円繰入計画。

(4) 情報・システム関連

WiFiを中心としたネットワーク環境の安定化を図る。

(5) 自己点検・評価

ルールに準拠し対応予定。

10. 経営課題

(1) 経営状況の分析

対外的な広報活動等が奏功し、生徒数は微増傾向。また SY2018-2019 からの校納金の値上げ、Summer school プログラムの拡充が収入増に寄与してきている。他方、高止まりを続ける人件費、毎年の施設設備改修に伴う支出金額は大きく、収支は厳しい状況が続いている。

(2) 経営上の成果と課題

上記(1)参照

(3) 今後の方針・対応方策

人事政策順守、効率的な施設設備改修投資、生徒数増加に向けた施策強化

11. その他

(1) 周年活動等

該当なし